

## 令和5年第1回美浜町議会臨時会

(令和5年2月8日開議)

### 町長あいさつ（提案理由の説明）

本日ここに、令和5年第1回美浜町議会臨時会を開催いたしましたところ、議員各位におかれましては、お忙しい中、お繰り合わせご出席を賜り、開会の運びとなりました。心より厚く御礼申し上げます。

立春も過ぎ、暦の上では春を迎えましたが、先月下旬は、日本海側を中心に10年に1度と言われる厳しい寒波が到来いたしました。当日は、舞鶴若狭自動車道や国道27号、梅街道を通行止めとするなど警戒体制が敷かれたわけですが、予測しうる自然災害に対し、関係機関連携による計画的・効果的な予防措置の必要性を実感するところであります。

さて、私は、町民の皆様のご支援の下、町長職に就かせていただき、来月6日に任期満了を迎えることとなりました。任期中は、世界的あるいは歴史的にも深刻な事態に見舞われ、その影響による未だかつてない対応が迫られる4年間であったと回顧しております。

令和元年12月に中国で初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中に拡散し、未だに変異を繰り返し収束することなく長期化しております。この未曾有の感染症は、健康や生命を脅かすとともに、人と人とのつながりや価値観、生活様式に大きく影響を及ぼすなど、社会常識を一変させる事態を招きました。

また、長期化するコロナ禍に加え、昨年2月に勃発したロシアのウクライナ侵攻は、未だ収束の見通しが立たず、世界秩序崩壊の危機はもとより、エネルギーや食糧危機、燃油や諸物価高騰にまで影響が広がっております。

こうした事態により、我が国はもとより本町においても、地域経済や住民生活はじめ、行政運営面にまでも大きな影響が及ぶこととなりましたが、来るべき北陸新

幹線敦賀開業や刻々と変わりゆく社会情勢をしっかりと見極めながら、コロナ感染症対策や経済対策、地域振興対策など必要かつ効果的な施策を着実に進めることが出来たと考えております。

改めて、町政の推進に、ご理解とご支援、ご尽力をいただきました、議員各位はじめ多くの町民や職員の皆様に対し深く感謝を申し上げる次第であります。

今回、任期を迎えるにあたり、これまで進めてまいりましたまちづくりについて、振り返りたいと存じます。

まちづくりの大きな方向性は、総合振興計画が描く将来像「みんなで <sup>つく</sup>創り <sup>つな</sup>絆ぎ <sup>つど</sup>集う <sup>うま</sup>美し美浜」を目指すものであります。

私は、その実現に向け、「まちづくり」3つの柱を掲げました。

「住んでいることに幸せと誇りを実感できるまちづくり」、「夢と希望・活気あふれる産業を育むまちづくり」、「誰もが訪れたい・住みたい・応援したくなるまちづくり」であり、これに資する様々な施策に取り組んでまいりました。

また、これらの施策を着実に進めるための地域力や行政力の強化、人づくりや地域づくり、その源泉となる「地域愛」の醸成に向けた施策を併せて進めてきたところであります。既に成果が見え始めたものもありますが、途上のものであっても、進める過程において、新たな地域力が芽生えるなど、しっかりと腰を据えた着実なるまちづくりへの息吹を感じております。

それでは、施策の成果や取り組みの一端について申し述べます。

まず、まちづくり1つ目の柱「住んでいることに幸せと誇りを実感できるまちづくり」について申し上げます。

就任直後より、官民一体となった協働のまちづくりを効果的かつ機動的に進めるため、町民の皆様との意識共有と施策の構築に努めてまいりました。

新たに「地域あいあいほっとミーティング」を立ち上げ、全集落はもとより、各種団体はじめ、若者や子ども世代など、多くの方々との対話を通して、町や地域、集落が抱える様々な課題をお互いに共有する機会の確保に努めてまいりました。

こうした機会を契機に、集落の将来像をみんなで描く「集落元気プラン」の策定が進んだほか、「集落元気プラン活動支援事業」などの従来の枠組みにとらわれない、柔軟な地域づくり支援策の施行に繋げることが出来たと考えております。

また、町の将来を担う子どもたちは、地域の大切な宝であることから、安心して子どもを産み育てられる環境の整備や充実等に努めてまいりました。

令和2年4月には、妊娠・出産から高校生まで切れ目のない包括的かつ総合的な子育て支援の拠点施設として、「子ども・子育てサポートセンター」と「学校・教育支援センターなないろ」を開設し、きめ細やかな相談支援体制を構築いたしました。

更に、関係機関の意見集約や横断連携による機動的な子育て支援策「美浜ほっと子育てプロジェクト」を立ち上げ、保育料無償化の拡大や子育て応援ホームページの開設、子どもたちの笑顔溢れる遊び場「ふわふわドーム」を整備いたしました。

健康づくりでは、「げんげん<sup>ぶら</sup>歩<sup>らす</sup>楽<sup>す</sup>寿」運動を柱とした、運動や食の改善による健康づくり事業を進め、また、高齢者の皆様が地域の担い手として楽しみながら活躍できる、町独自の「地域あいあいポイント事業」など健康寿命の延伸や介護予防につながる事業も進めており、600名近くの皆様の参加活用に繋がっております。

そのほか、健康づくり拠点施設「こるぱ」や、グラウンドゴルフ場の整備、三方五湖の湖畔を中心としたサイクリングやウォーキングコースの整備など、運動機会の提供と運動意欲の向上に繋がる環境づくりも進めてまいりました。

楽しく集い、安心して暮らせる社会基盤づくりでは、町の中心部、美浜駅から「なびあす」までの一角を、誰もが楽しく集う交流エリアとすべく、「にぎわいゾーンの整備」を進めております。このゾーンは、町の活性化の核となるものであり、美浜駅舎や駅前広場のリニューアル、道の駅「はまびより」やイチゴ観光農園等の施設整備を進めてまいりました。

お陰様で、その中核施設となる「はまびより」は、来る6月2日に開業の運びとなり、関連施設や国道27号、県道や町道の新設改良事業についても開業時期に併せ順調に工事が進められております。

ここに至るまで、ご理解・ご協力を賜りました、地権者はじめ地元関係者や関係団体、関係機関の皆様にご心より御礼を申し上げます次第であります。

これから、ゾーンを形成する各施設の機能連携による回遊性に富んだにぎわいや交流を進めるとともに、ゾーン機能を活かせるよう新たなにぎわいの創出についても検討が必要であると考えております。

さて、近年、地球温暖化の影響による甚大な災害が頻発しており、町民の生命財産を守るための重要な施策課題として、防災対策の充実強化に努めてまいりました。

現在、防災情報伝達システムやケーブルテレビ伝送路網の更新や強靱化、防災アプリの導入など、町全域の防災情報伝達基盤を充実強化したところであり、指定避難所のWi-Fi整備、役場庁舎やはあとぴあの非常用発電設備の増強工事を進めているところであります。

また、想定を超える豪雨に備え、町管理中小河川の水害リスク図を登載した県内でも先駆的な「洪水ハザードマップ」を作成し、全戸配布するとともに、防災工事も順次進めているところであります。

更に、防災減災に大きく繋がる地域防災力の向上に向けて、防災リーダーの育成支援や町防災士協議会の設立、自主防災組織の充実強化を図ってまいりました。

次に、2つ目の柱「夢と希望・活気あふれる産業を育むまちづくり」について申し上げます。

本町の美味しい自然や食を育む農林水産業、豊かな地域経済を育む商工業が、持続的で魅力ある産業となるよう支援策に取り組んでまいりました。

とりわけ、長期化するコロナ禍や諸物価高騰は、町の産業に大きな影響を及ぼしてきたことから、消費喚起のための商品券の発行や、観光誘客に向けた宿泊割引制度の実施、借入資金の利子補給のほか、農業者や漁業者に対する燃油支援など実情

に促した支援策を適時講じてまいりました。

また、「美浜町農業基本計画」に基づき、担い手の育成や新規就農者を確保するための「農業人材育成拠点施設」を開設したほか、施設園芸の振興にも努めており、昨年度の園芸産出額が約3億円と6年前の10倍超にまで拡大しております。

企業誘致につきましても、積極的に誘致活動を進め、若狭美浜インター産業団地に新たに2社の進出をいただきました。これからも、地の利と廉価な電力など有利性を活かした誘致活動を進めていく必要があります。

原子力との共生につきましては、美浜発電所3号機が令和3年6月、国内初となる40年超運転の原子力発電所として、10年ぶりに再稼働いたしました。

我が国が、エネルギー危機に瀕する中、電力の安定供給や脱炭素化への貢献はもとより、原子力政策のあるべき姿の一端を示す歴史的にも意義深いものになったと考えております。

昨今、GX実行会議での議論や社会情勢が大きく変化する中、原子力発電の果たす役割について国民理解が深まりつつあります。また、先般、国が示した「今後の原子力政策の方向性と行動指針（案）」は、将来を見据えた新たな原子力政策への第一歩と捉えており、美浜3号機はじめ本町が果たしてきた役割の大きさを実感しているところであります。

これからも、「信念と誇りを持って国策に協力していく」との先人の崇高な思いを受け継ぎ、町民の皆様のご理解を得ながら、安全安心の最大限の確保、地域の振興を大前提として、原子力と共生するまちづくりを進める必要があると考えております。

次に、3つ目の柱「誰もが訪れたいくなる・住みたいくなる・応援したいくなるまちづくり」について申し上げます。

「訪れたいくなる」まちづくりにつきましては、就任以来、「百年に一度の好機」と言われる北陸新幹線敦賀開業を目標に、観光資源の魅力アップなど、交流人口の拡大に向けた施策を進めてまいりました。

とりわけ、レインボーライン山頂公園の天空テラスや電池推進遊覧船、サイクリングロードの整備などが概ね整い、全国に誇れる「三方五湖」の魅力が天空、湖面、湖周から体感いただける魅力あふれる観光資源へと生まれ変わりました。

こうした資源を最大限に活かし、観光まちづくりを機動的に進めるための「三方五湖観光DMO」を設立するなど、推進体制も構築したところであります。

また、観光地として不可欠なおもてなしの環境を整えるべく、美しい浜プロジェクトの実施や観光道路の美化事業など、受け入れ体制の充実に努めており、北陸新幹線敦賀開業に向け、着々と準備を進めているところであります。

「住みたくなる」まちづくりにつきましては、特に若い世代の方に魅力を感じていただくための施策を展開してまいりました。

とりわけ、若者や子育て世代向けの「<sup>うまし</sup>の<sup>の</sup>美し野ニュータウン」は、分譲開始から5年で完売するなど好評で、人口減少対策や少子化対策に大きな成果がありました。

これからも地域性を考慮しながら計画的に分譲地を整備することとしており、新たな分譲地の整備に着手したところであります。

また、若者が住みやすい住環境づくりや、A r t F o x（アートフォックス）など若者世代が企画運営するイベント等への支援策は、斬新で魅力あるまちづくりへの一環として着実に機能し始めており、波及効果も期待しているところであります。

まちづくりは、町民だけでなく、美浜に魅力を感じる方々の応援が必要であります。町にゆかりのある方や多様な関わりの中で、美浜をアクティブに応援していただける方を「みはま応援クルー」として登録する制度をスタートいたしました。

現在、約250名の方々に登録いただいておりますが、イベントや海岸清掃などの奉仕活動等に、お力とお知恵をお借りすることで、人口減少にあっても活気あるまちづくりに繋がるものであり、充実する必要があると考えております。

さて、まちづくりの源泉は「地域愛」です。町内の様々ところで「地域愛」にあふれた活動の輪が徐々に広がってきております。

町内3小学校では、子どもたちの視点と発想で町の課題を探求し、まちづくりを提案する探求学習「ふるさと美浜元気プロジェクト」が実践され、地域づくりや教育分野で全国表彰を受けるなど、極めて評価の高い活動が続けられております。

この活動により、子どもたちは、町の将来を自らのこととして捉え、地域愛やまちづくりへの参画意識の醸成に着実に繋がっているものと考えております。

そして、「集落の元気は町の元気」です。集落では、将来を話し合い、課題を共有する機会を契機に、集落組織を法人化し、地域資源を活かした多様な発想による意欲的な地域づくりが始動するなど、集落の特性に応じた、持続可能な地域づくりも広がりを見せております。

更に、長年に亘り、町内で地域のため奉仕活動を続けてこられた方々の有難い活動を顕彰すべく「<sup>うま</sup>美し美浜の地域愛表彰」を創設いたしました。顕彰を通して、町民に広く知っていただくことはもとより、ふるさとを愛する気持ちの醸成にも繋げていければと考えているところであります。

これまで、コロナ禍など厳しい社会情勢に向き合ってきましたが、間近に控えた北陸新幹線敦賀開業や大阪万博開催、共創会議で地域の将来像が示されるなど、町として飛躍の好機が訪れようとしております。潜在力の極めて高い本町でございますので、しっかりと素材を活かし「<sup>うま</sup>美し美浜」を実現していかなければならないと考えております。

そのためには、地域愛あふれる町民の皆様とのエネルギーと企画力、行動力に富んだ行政力もこれまでも増して求められるものと思料するものであります。

町の将来像を住民・行政ともにしっかり見据え、また、それぞれの役割を自覚し、振興計画の基本理念である「<sup>つく</sup>創る」「<sup>つな</sup>絆ぐ」「<sup>つど</sup>集う」に基づく政策を着実に実行していかなければならないことを、強く実感しているところであります。

以上、私が担わせていただきました4年間を振り返りましたが、町や町民の皆様を確かな方向に導くため、今後とも議員各位におかれましてはお力を存分に発揮さ

れますことを切望するとともに、行政運営に対しましても何卒ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、本日ご提案いたしました各議案につきまして、その概要と提案理由をご説明申し上げます。

議案第1号につきましては、子育て支援として、すべての妊婦及び子育て家庭等への経済的支援策に必要な経費を緊急に補正する必要が生じましたが、議会を招集する時間的余裕がなかったため、令和4年度美浜町一般会計補正予算（第6号）を1月13日に専決処分いたしましたので、これを報告し、議会の承認を求めるものであります。

議案第2号 令和5年度美浜町一般会計予算につきましては、令和5年度は「第五次美浜町総合振興計画」後期基本計画の折返しの年であり、北陸新幹線敦賀開業を翌年に控え、計画に掲げた施策について所要の成果を挙げるべく、着実に事業を推進する重要な年であります。

しかしながら、私の任期がこの3月6日に満了となることから、政策的経費については、原則として新たな施策予算の計上は見送り、継続事業等を中心に、重要かつ当初予算での対応が特に必要なものについて、今回予算で計上いたしました。

また、経常的経費につきましても、可能な限り歳出額の縮減に努め、いわゆる骨格予算として予算編成を行ったところであり、令和5年度当初予算につきましては、前年度に比べ12.8%減額となる75億5,289万4千円となっております。

それでは、歳出予算の主なものについて申し上げます。

総務費では、役場庁舎の経年劣化に伴い、施設の長寿命化を図り、住民サービスの向上等を目的とした改修工事費として3億3,990万円を、また、新たな公共交通システムとしてデマンド交通実証運行を実施する経費などで5,134万1千円を計上いたしました。



衛生費では、一般廃棄物処理の広域化に係る費用負担として、  
1億4,405万5千円を計上いたしました。

農林水産業費では、園芸産地の育成・拡大を図るため、トマトを栽培する大規模園芸ハウスの増設を支援する経費として、スマート施設園芸拡大推進事業に  
1億5,748万7千円を計上いたしました。

商工費では、4月に開業するレイクセンターのオープニングイベント開催経費のほか、電池推進遊覧船の安全航行システムの運用経費など、三方五湖ゾーン活性化事業に2,986万4千円を、町内観光施設や北陸新幹線敦賀開業に向けた誘客プロモーションを強化するための経費として、若狭美浜観光PR事業に  
1,642万3千円を計上いたしました。

土木費では、道の駅「はまびより」が6月に開業することから、オープニングイベント開催経費のほか、同施設の指定管理料及び施設購入経費として、美浜町スマートコンパクトシティ魅力創造拠点化事業に1億5,755万円を計上いたしました。

教育費では、第35回の記念大会として開催する美浜・五木ひろしふるさとマラソン開催事業に2,610万6千円を、その前日に開催する五木ひろしさんのチャリティーコンサートの開催経費として、1,500万円を計上いたしました。

また、総合運動公園の施設改修工事費として、1億605万円を、学校プールの改修工事等の経費として、1,383万9千円を計上いたしました。

一方、歳入予算につきましては、町税が40億1,469万1千円、国県支出金で22億5,715万3千円、繰入金4億3,147万5千円などをそれぞれ充当し、収支の均衡を図った次第であります。

次に、議案第3号から議案第13号までの11議案は、令和5年度の各特別会計

及び企業会計の予算であります。

これら各特別会計及び企業会計は、それぞれの設置目的に沿って事業の運営経費や建設事業費等の所要額を一般会計に準じて計上したものであり、診療所事業特別会計など10特別会計の予算総額は39億969万2千円、また、上水道事業会計の予算額は3億9,717万8千円であります。

各会計の予算総額等を申し上げますと、診療所事業特別会計では、検査などの件数の増加及び医療機器の更新に伴う賃借料の増額が見込まれることから、対前年度比333万円増の1億2,661万8千円を計上いたしました。

国民健康保険事業特別会計では、一般被保険者数の減少に伴う保険給付費等の減少により、対前年度比1,359万6千円減の11億9,959万3千円を計上いたしました。

後期高齢者医療事業特別会計では、保険料改定に伴う後期高齢者医療広域連合への納付金の減少により、対前年度比437万2千円減の1億5,301万8千円を計上いたしました。

介護保険事業特別会計では、在宅介護サービス給付の減少等により、対前年度比3,740万円減の11億990万6千円を計上いたしました。

また、簡易水道事業特別会計では、菅浜簡易水道建設改良事業等の減少により、対前年度比4,507万2千円減の2億3,001万5千円を計上いたしました。

集落排水処理事業特別会計につきましては、漁業集落排水処理施設の管渠布設工事等の増加により、対前年度比5,214万3千円増の2億458万5千円を計上いたしました。

公共下水道事業特別会計では、浄化センターの修繕改築工事委託等の増加により、対前年度比1億7,839万8千円増の7億6,276万円を計上いたしました。

産業団地事業特別会計では、企業誘致活動経費等の減少により、対前年度比7万3千円減の324万3千円を計上いたしました。

住宅団地事業特別会計では、金山地系の住宅分譲地造成工事完了に伴う事業費の減少等により、対前年度比3,944万3千円減の1,214万5千円を計上いたしました。

道路用地取得事業特別会計につきましては、国道27号の用地取得に係る借入金の元利償還金の減少により、対前年度比1,044万2千円減の1億780万9千円を計上いたしました。

最後に上水道事業会計であります。郷市地区の導水管及び配水管布設替工事等の増加により、対前年度比8,710万8千円増の3億9,717万8千円を計上いたしました。

以上、付議案件の概要について申し上げましたが、不備な点等につきましては、その都度、私又は関係者からご説明申し上げますので、何卒慎重ご審議の上、妥当なご決議を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶と提案理由の説明とさせていただきます。

どうぞよろしくようお願い申し上げます。